



中越地震の教訓を 生かした防災活動

令和7年3月31日

長岡市 中越市民防災安全士会
岸、星野、石黒、中島、田村

1

長岡市の洪水リスク

令和元年10月台風19号 長生橋



平成16年7月新潟福島豪雨



映像は2004年7月14日放送「NHKニュース7」から

5

中越市民防災安全士会って？

長岡市の市民大学

「防災安全大学」卒業後も「防災を学びたい」

「地域で防災活動の実践をしたい」



熊本地震

そういう人の集りです



南相馬でのボランティア

9

女性部

女性ならではの視点で防災を考え、実行

災害ボランティア部

被災地に出向きボランティア活動する

無線部

災害初期の無線活用を研究する

防災講話部

洪水や地震への備えの講話を提供

広報部

会報誌を年4回発行する

13

1

長岡市の防災的側面の紹介

長岡市の中央部は信濃川により形成された沖積平野に位置し、江戸時代には長岡藩の城下町として栄えた。

戊辰戦争と第二次世界大戦（長岡空襲）の二度にわたって市の中心部は壊滅的被害を受けるが、共に不撓不屈の精神により復興を遂げ、現在に至る。フェニックス！



米

錦鯉

花火

酒

山本五十六



- ・人口 255,746人 (R6年10月1日)
- ・自主防災会数 835 (R5年4月1日)
- ・上越新幹線
東京まで1時間40分

2

本庄市の洪水リスク

河川洪水(外水氾濫)

- 3.0～5.0m 未満
- 0.5～3.0m 未満
- ～0.5m 未満

内水氾濫

- 0.3～0.5m 未満(想定値)
- ～0.3m 未満



元小山川以南は内水氾濫での漫水が予測。利根川側は堤防決壊による洪水が想定。

6

安全士会紹介

安全大学の卒業生が会を作った

第1期卒業生有志で「このまま解散じゃもったいない」と結成されたもの。

会の理念は「継続しての防災技術習得」と「同好の士で懇親を深めよう」

年度	加入期生	加入者数	期初会員
29年度	11期生	15	175
30年度	12期生	15	170
R元年度	13期生	25	182
R2年度	14期生	15	186
R3年度	15期生	15	180
R4年度	16期生	16	180
R5年度	17期生	21	181
R6年度	18期生	24	175

変化する会員構成

- 10年前加入会員の退会増加
会員の高齢化～介護、健康問題
- 市内以外からの受講者増加
新潟市、燕市、柏崎市、
見附市、南魚沼市 他
- 現役勤労者、学生受講の増加

10

応急手当普及部



地域防災訓練での応急手指導

14

長岡市の地震リスク



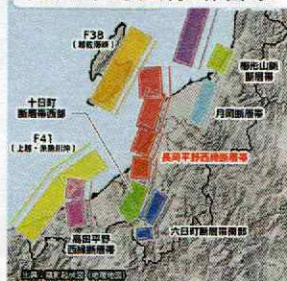
中越地震
yamakoshi.org

- 平成16年10月23日午後5時56分発生
- 震央 中越地方（長岡市川口町）
- 規模 マグニチュード6.8
- 最大震度 震度7
- 震度5以上の余震18回
- 死者 68名

Yamakoshi.org

令和7年1月15日に政府の地震調査委員会は「長岡平野西縁断層帯」をSランクにアップしたと発表。

長岡平野西縁断層帯



3

本庄市の地震リスク



4

長岡市の原発事故リスク



東京電力ホールディングスホームページから



長岡市では屋内退避の重要性や避難が必要になった時の行動や避難先についてパンフレットを作成し、全戸配布すると共に出前講座での地域学習を呼掛けています。

長岡市は殆どが5km～30km圏内



7

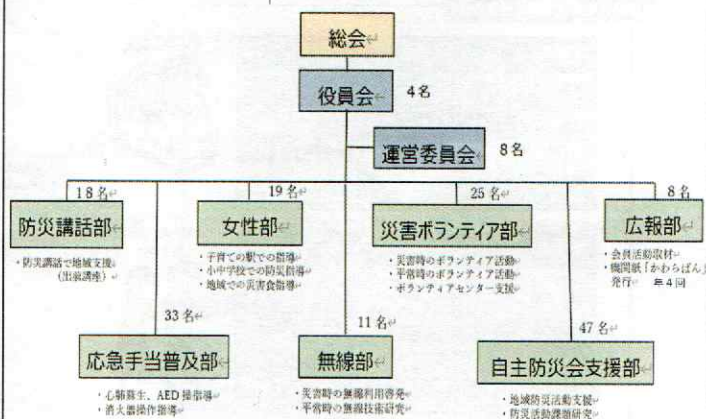
2 安全士会を紹介します



設立時の集合写真 ほぼ男社会

8

安全士会の組織



11

安全士会の7つの専門部



一緒に高め合う

専門部に入らない自由もあります・・・

応急手当普及部

「心肺蘇生、AED操作」を指導する

自主防災会支援部

防災会の困りごとにアドバイスする

12

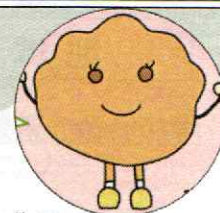
災害食指導

女性部



15

女性部（シュークリーム）令和7年度の取り組み



1, 災害食レシピ集 第二弾 を作る

2, 市民向け防災パンフ「防災知恵袋」を作る

・持ち出し袋（防災ポーチ）の中身は？

3, パッククッキング 講習資料見直し

16

ボランティア部 + 女性部



本庄市（小島南）の方々からも足湯をして頂きました。 17

防災講話部



地域でハザードマップの解説を 18

防災よろず相談の内容（令和6年度）

相談のタイプ	件数	10	20	30	40	50	60	70	80
メニューは決めてあり、日程などを相談する	82								
訓練案を幾つか持参され、種々検討し、メニューを決める	19								
何をしたらよいかわからないという町内。話を聞いて提案する	8								
課題や経緯を深く議論し、訓練内容を決める	5								
防災会長の役割を示しながらテーマを決める	8								
他町内の事例を確認しながらテーマを決める	8								
その他	27								
助言で終わりとなり、訓練指導や出前講座は依頼されず	6								

163

21

出前講座の内容（令和6年度）

出前講座の種類	件数	10	20	30	40
応急手当指導	47				
洪水ハザードマップ講話	18				
災害食講座	20				
原子力防災講話	16				
地震への備え講話	18				
避難行動要支援者	4				
その他	18				

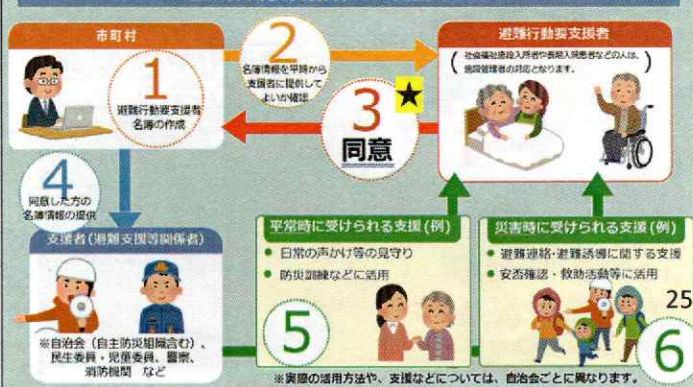
141

22

避難行動要支援者対応とは

★ 同意 の意味を考えてみましょう

避難行動要支援者への支援イメージ



地域への呼びかけ ③

障がい者の避難支援について取組みを深めよう

- 1) 地域の障がい者が要支援者名簿に登録されているか？
・名簿掲載者を訪ね、必要な支援を確認しましょう
- 2) 本人は避難情報などの情報を入手できるか？
・市では希望者に緊急FMラジオを無償で貸与します
- 3) 災害発生時や、避難情報発令時には防災委員などが障がい者を訪ね、情報伝達・安否確認などを行いましょう

29

要支援者名簿に載せる基準～高齢者と障害者

避難行動要支援者の調査方法

高齢者	
調査基準	概ね要介護3以上
調査実施者	行政による調査 市からの文書により意向確認
調査世帯	単身高齢者・高齢者のみ世帯・高齢者と児童のみ世帯（若手と同居している日中独居の方は、調査対象外）
障害者	
調査基準	身体障害者手帳（1・2級） 療育手帳（A判定） 精神障害者手帳（1・2級）
調査実施者	行政による調査 市からの文書により意向確認
調査世帯	世帯の全員が高齢者・障害者手帳保持者・児童のみ世帯

26

中越地震後の障がい者聞き取り

～平成16年新潟県中越地震における災害時要援護者調査～

聴覚障害者（言語障害者）

避難生活における抽出事例（困った点）

- ① 手話通訳のできる人がいない避難所では、情報がわからずに困ることが多かった。
- ② 災害情報や支援物資の受け取り等の情報を得るのが遅かった。
- ③ 近所の人とは、普段からのつきあいや、連絡のやりとりをしていたのだが、避難生活では、こちらからの問いかけに対して答えてもらえなかった。
- ④ 以前に「見えるラジオ」を配られたことがあった。しかし、避難先（中越地域）は「見えるラジオ」に対応していなく、役に立たなかった。
- ⑤ 避難生活時、携帯電話の充電が切れて、携帯メールの使用ができなかった。ラジオを通じて「〇〇避難所にて携帯電話の充電を行っています。」との広報はあったものの、掲示等されていなかったため、その情報を得られなかった。

30

3 安全士会のユニークな点

1 中越地震の教訓を実践しています。

防災士の受入れ組織であり、安全大学の設立理念をフォローする組織。
地震の教訓は「地域に防災士を」であり、その育成を担う。

2 市の委託事業者として防災活動に取り組んでいます。

・予約不要の防災よろず相談 ・相談の結果としての出前講座
行政では届かないところまで活動します。

19

防災講話のメニュー事例

下のテーマについて40分程度のプレゼンテーションを行う

洪水編



ハザードマップの見方と
避難行動の基本を解説

土砂編



土砂災害のパターンと
避難行動の基本を説明

原子力編



放射線、原子力発電、
原発事故時の避難を説明

講座資料は、多くの場合パワーポイント資料30～40枚でスクリーンに投射する 23

地域への呼びかけ ①

基本を学びましょう

「避難行動要支援者」避難支援制度を理解しましょう

関係者（班長あるいは防災役員）で集まり、要支援者の事を
学び、支援の方法を話し合い、当事者としての協力を依頼する。

- ・制度の背景、国としての力の入れ方
- ・名簿を開示し協力を得る（開示のガイドラインを守る）
- ・地域支援者を決める（可能な範囲～時間限定でも）
- ・体制づくり、支援者選定における課題の抽出整理
- ・地域の防災体制自体の課題抽出と対策

27

避難生活時における抽出事例（良かった点）

- ① 避難所に手話ボランティアが来てくれたおかげで、多くの情報を得られた。
- ② アイ・ドラゴン（字幕デコーダ）を避難先に設置して頂いたので、情報を得られた。
- ③ 平常時からコミュニケーションをとっている近所の方々と一緒に避難生活を送ったため、不安はなかった。

行政等への要望・望まれる対策

- ① 地震だと気づくのに時間がかかった。また、避難に関しても、避難している人を見て同じ行動をとった。家にいても地震であるとか、避難行動についての情報がわかるようにして欲しい。
- ② 基本的な手話をしてほしい。手話ができないときでも、簡単な身振り手振りして、情報を伝達して欲しい。
- ③ 聴覚障害者専用の避難所が欲しい。
- ④ 広報・チラシ等の掲示板は、目につきやすく、なるべく多くの場所に配置して欲しい。
- ⑤ 行政からの広報紙で、内容が難しく理解できないときがあり、ろうあ者協会の会長が役所に行って内容の説明を受けた。そして、その結果を協会員に伝えることで、協会員にも内容を理解して貰うことができた。広報紙に掲載するときには、もう少しわかりやすく内容を書いて欲しい。

31

長岡市の安全士会への委託事業

防災よろず相談

・令和6年度は163件の
「防災よろず相談」を受けた。

出前講座

・令和6年度は141件の
地域防災活動支援を実施。

20

長岡市の「避難行動要支援者対応」

- ・長岡市の登録避難行動要支援者数 約4,900名
- ・優先順位付けされた要支援者 約1,500名
⇒ 令和6、7年度で介護事業者と市とで協力し
「個別避難計画」を作成

【問題点】

自主防災会と介護事業者、民生委員との連携明確化必要

「個別避難計画」の作成、提出の義務化が曖昧

→ これらを明確にしたガイドブックを
令和7年6月に発行すべく共同作業推進中。 24

地域への呼びかけ ②

要支援者個人に関する情報を確認しましょう（面談）

- ・家族、親戚などの方の考え方を確認しましょう。
（・本当にお願ひします、なのか？ ・連絡するだけでOKかも）
- ・できれば民生委員と一緒に本人から話を聞きましょう。
- ・介護事業者との関わりを個人情報に注意しながら確認しましょう。
（・利用している施設のこと ・災害時の事業者の支援有無など）
- ・家族や本人に避難先が決めてあるかどうか確認。

個別避難計画の記載できる部分だけでも埋めてみましょう

完璧を目指さず、できる所から

28

終わりに

高齢化、過疎化や気象の変化などで、防災の取り組みも
変わってきています。今まで安全でもこれからは？

- ① 高齢者や要支援者（含む障がい者）に重点を置いた
支援活動が重視されていますが道半ばです。
- ② 共助も大事ですが、まず自助をきちんと果たせるよう
にPRしましょう。
- ③ 情報化の進展、進歩があります。
 - ・個人個人が情報を取れるようにしましょう。
 - ・SNSの進歩を取り入れるようにしましょう。

32